



池上山瑞竜院新福寺由緒

文永九年(千二百七十二年)、結城廣綱公、都阿知栄上人に帰依し、現結城市新福寺の地に長楽寺と申す一字を建立。広綱公逝去、法名を「新福寺殿教阿弥陀佛」と号す。これにより長楽寺を改め新福寺と称する。

康正元年(千四百五十五年)多賀谷氏家公、下妻に築城するにあたり城中に引寺。三百八十石を寄進し堂塔伽藍を完備した。塔頭一庵、末寺七カ寺を有する本寺であると同時に多賀谷の司寺としての役目を担った。明治十年及び明治三十年二回の類焼火災に山門を残し堂宇全て消失するが、後、本堂庫裏を再建する。しかし廢寺の移築による再建の為本堂の損傷が酷く、檀信徒 寺族一体となり本堂及び客殿の建設を行い今日となる。

開山忌とは

新福寺を開山した第一世、都阿彌陀佛智栄大和尚と今日までこの寺を守り続けてきた住職と檀家皆様のご先祖を供養する儀式を言います。(ちなみに、現住職仁阿は三十九世です。)

命というのはタテの縁、世間の人は横の縁。

この二つが交わったところで私達は生かされているのです。

一人で生まれた人はいません。

全て先祖様から継いでもらった結果、今日があるのです。

寺と檀家が一体となり共に次の世代に継いで行く証を皆様と共にこの開山忌で共有しましょう。